

「愛知県その道の達人」派遣事業 実施報告書

達人名	加藤 三保子 先生 (手話の達人)
実施校	一宮市立今伊勢西小学校
実施日	平成21年2月1日(日曜日)
実施学級	3年1組～3組(101人) <1クラスの授業を3回実施>
授業の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1 耳の不自由な人について学習することを伝える。 2 達人の紹介をする。 3 DVDで、耳の不自由な人の暮らしを見る。 4 達人による耳の不自由な人の暮らしについてのお話を聞く。 聴覚障害にはどのような特徴があるのか。 耳の不自由な人とのコミュニケーション方法 (例：手話・口話・筆談・空書・ジェスチャーなど) 手話は世界共通ではない。 耳の不自由な人を助けるいろいろな機器を知る。 5 手話で歌を歌う。(手のひらを太陽に) 
児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 達人は、言葉をしゃべりながら手話もできてすごいと思った。 ・ 私は、もっと手話を覚えて、もし耳が不自由な人が困っていたら、手話で教えてあげたいと思った。 ・ 手話はどの国でも共通だと思っていたけど、国によってちがうと知ってびっくりした。 ・ 「あいずくん」や「かきポン」など、耳の聞こえない人のためにいろいろな工夫があることにびっくりした。 ・ ぼくは、手話とジェスチャー以外に耳の不自由な人に教える方法があることを初めて知った。ジェスチャーに限界があることも初めて知った。 ・ 耳の不自由な人のためにわたしたちができることがたくさんあることを知った。耳の不自由な人が安心して暮らせるようになってほしい。
教師の感想	<p>子どもたちは、達人の話をしながらの見事な手話を目の前で見て、もっと手話をやってみたいという思いを強めていた。耳の不自由な人が困っていた時に手助けするための様々な方法や、その一つとしての手話の素晴らしさを実感させられる授業であった。子どもたちの中で、耳の不自由な人を身近に感じ、また、困っていたら助けたいという思いを深めることができた。今後も、子どもたちが障害のある方々を身近に感じ、共生することの大切さを実感できる機会をつくっていきたい。</p>